

令和6年度 かほく市立大海小学校 学校評価計画書

経営目標	取組内容	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1	確かな学力の育成	学習指導部	授業において、児童は教師の発問や指示には素直に答えるが、主体的に学習に向かう姿勢やかかわり合っている意識がやや低い。	授業において「主体的に学びを深める工夫」を意識して指導している。	教職員アンケートで80%以上	A: 80% B: 70%以上80% C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	7月・12月 (教職員)
			自分の考えを友達に伝えることができる。	児童アンケートで80%以上	A: 80% B: 70%以上80% C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	7月・12月 (児童)	
	イ タイムマネジメントを意識し、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保する。	GIGA担当	授業前半部に時間をかけすぎため、「振り返り」や「適用問題」の時間が十分にとれていない。	授業において、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保している。	教職員アンケートで80%以上	A: 80% B: 70%以上80% C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	7月・12月 (教職員)
	ウ より主体的な学習となるために1人1台端末を効果的に活用したICT教育の実践推進		授業で1人1台端末を活用する機会が増えたが、回数や内容に学年差がある。実践の交流等で、内容の充実を図る必要がある。	1人1台端末を活用した授業を計画的に行っている。	1人1台端末を活用した授業を週に1～2回以上行っている	A: 週3回 B: 週1～2回 C: 月2回以上 D: 月1回以下	7月・12月 (教職員)
	エ 家庭学習の習慣づけを図る。(10分×学年)		学習指導部	課題として出された家庭学習には、概ね真面目に取り組める。しかし、主体的・習慣化という面では十分とは言えない。	学年に応じた家庭学習の仕方が定着し、進んで取り組んでいる。	「自分の決めた学習時間を守って学習している」児童・保護者アンケートで80%	A: 100% B: 90%以上100% C: 80%以上90%未満 D: 80%未満
オ 読書に親しむ習慣化を図る。	毎月23日前後にうちどくの朝読書を設定している。どの学年も積極的に読書に取り組んでいるが、質の向上を図る必要がある。	朝読書や学年に応じた必読書を設定することで、本を読む習慣をつけ、質の高い本を読んでいる。		年間 次の数値以上 低学年は150冊 中学年は100冊 高学年は80冊	A: 90% B: 80%以上90% C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	7月・12月 (児童)	
2	いじめ、不登校や問題構造の未然防止と特別支援教育の充実	生徒指導部	いじめや不登校の事案は少なく、小さなトラブルについても、早期対応している。今年度もスクールカウンセラーを活用していく。	問題行動が起きる前に、児童と積極的に関わり、生徒指導主事を中心としたチーム対応で家庭と連携を図り、問題解決ができるようにしている。	教職員アンケートの結果が90%以上	A: 100% B: 90%以上100% C: 80%以上90%未満 D: 80%未満	7月・12月 (教職員・児童・保護者)
	イ あいさつを通して他者とのよりよい関わりを持たせる。		学校でのあいさつは元気にできるようになっているが、地域でのあいさつも進んでできるとよい。	学校内で出会った人にあいさつができる。	児童・教職員アンケートの結果が90%以上	A: 100% B: 90%以上100% C: 80%以上90%未満 D: 80%未満	
	ウ 配慮を要する児童への指導、支援の在り方(SRの運用等)の共通理解を図る。		各クラスに数名ずつは、配慮を要する児童が在籍している。日頃から教師間のコミュニケーションを密にし、共通理解を図っている。	配慮を要する児童に対して、組織的に取り組んでいる。	教職員アンケートの結果が90%以上	A: 100% B: 90%以上100% C: 80%以上90%未満 D: 80%未満	
	エ 豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実を図る。		道徳の授業で自分の思いを話せる児童が増えてきた。だが、道徳的判断力・実践力の弱い児童もいる。	道徳の授業を通して、道徳的な判断力、実践力が高まっている。	児童:「道徳の授業で、内容項目について考えている」が80%以上 教職員:「道徳では、年間指導計画に基づき、計画的に授業を行っている」が100%	A: 100% B: 90%以上100% C: 80%以上90%未満 D: 80%未満 A: 100% B: 90%以上100% C: 80%以上90%未満 D: 80%未満	
3	生活習慣の定着と運動能力の向上	保健安全部	朝ご飯の意識は高まってきた。その他の健康管理への意識については、家庭によって差がある。ゲーム時間が長い児童や、早寝ができていない児童がいる。	養護教諭と連携して、食育や視力低下防止の授業及び活動を推進している。	児童・保護者アンケート「朝食を食べている」が80%以上	A: 90% B: 80%以上90% C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	7月・12月 (児童・保護者)
	イ 「体力づくり1校1プラン」による体力と運動能力の向上を図る。		体力テストの結果に学年差、男女差がある。どの種目も概ね良好であるが、一部県平均と比べて劣っている種目がある。	各学年で、スポチャレに取り組んだり、苦手種目を意識した活動を取り入れている。	学校独自の「はっぴ～貯金」の調査で就寝時刻を守ることが5日間のうち4日できたが80%以上	A: 90% B: 80%以上90% C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	5・9・1月 (児童・保護者)
4	教職員の働き方改革の推進	教務部	時間外勤務の改善意識は高まってきたが、休日出勤をしている職員もいる。	県全体で行っている勤務時間調査における勤務時間が昨年度を下回る。	勤務時間調査	A: -10%以上達成 B: -9%未満昨年度より削減 C: 昨年度同様 D: 昨年比+	7月・12月 (教職員)
5	コミュニティスクール事業の推進	教務部 学校コーディネーター	学校コーディネーターを活用し、地域の人材や素材を取り入れた授業が定着し、児童の関心意欲も高まっている。	総合的な学習や生活科等で地域の素材や人材を生かした授業を行っている	教職員アンケートの実施で90%以上	A: 100% B: 90%以上100% C: 80%以上90%未満 D: 80%未満	7月・12月 (教職員)
	イ 「学校運営協議会」の効果的な運用、学校関係者評価を生かした学校経営を実施する。		学校関係者評価を児童の指導に生かしている。今度もより、学校運営協議会の運営を充実していく必要がある。	家庭や地域との連携に際し、積極的に学校コーディネーターや学校運営協議会を活用している。	児童アンケートの実施で80%以上 教職員アンケートの実施で80%以上	A: 90% B: 80%以上90% C: 70%以上80%未満 D: 70%未満 A: 90% B: 80%以上90% C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	7月・12月 (児童) 7月・12月 (教職員・委員)